

(10) 青島港(集団)有限公司

項目	詳細
訪問日時	平成 23 年 11 月 3 日(木)14:00~15:00
概 要	<p>青島港指揮センターにて概要説明を受けた後、青島港（前湾港区・新港）を視察。</p> <p>●成 新農副総裁挨拶要旨</p> <ul style="list-style-type: none">・青島港は渤海経済ベルト地帯という、中国にある3大経済ベルト地帯の1つに位置し、その後背地（山東省）は非常に発展している。・青島港はアジアとヨーロッパ、アジアとアメリカ、アジアとオーストラリアの幹線航路という海上輸送の要に位置している。・黄河流域における最大のゲートウェイであり、環太平洋の西側における最重要港の1つである。・先進の港湾技術を用いた施設では、コンテナ、石炭・鉄鉱石、オイルの各バースを有している。・洗練された建物やインフラにより、新港エリアは世界で最も進んだコンテナターミナルとなった。・現在、世界の上位20位までの船会社すべてが新港で業務を行っている。また、世界140カ国の450を超える港と、32のコンテナ航路が開設されている。・IT技術について、現代的な情報網は国際港湾センターには不可欠であり、青島港指揮センターは、中国の港湾施設のなかでは最大かつ最も先進的な施設である。・青島港指揮センター（EDI：electronic data interchange）は、主要船会社すべてや、国内外の港湾、税関、乙仲業者を結んでおり、毎日、膨大な数の電子メールがこれらの構成員の間で送受信されている。・コンテナ業務管理システムおよびビデオ監視システムで、貨物入庫、積上げ、保管、積込みのプロセス全体を監視し、貨物状態をリアルタイムで捕捉可能となっている。・世界第一級のITセンターの建設により、デジタル港湾を構築することを目的としている。・将来的には、ネットワーク化とデータベース化を加速し、世界級の情報交換の環境を整備して、さらに多くの荷主、乙仲業者、船会社、世界の港湾を接続したい。

●市長挨拶後の総裁コメント

- ・青島港が世界ナンバー1の港湾となるためには、第12次5カ年計画に基づいた施策を行う必要がある。
- ・具体的には、年間6億トン、2,000万TEUの達成を目指していく。
- ・過去5年間と同様の経済成長であれば、達成可能であると考えている。
- ・2010年コンテナ取扱量1,201万TEUの内訳は、輸出3:輸入1であり、輸出が若干減少傾向にある。
- ・2011年下半期の動向は、輸入コンテナが増加傾向。
- ・最大のライバル港は釜山港である。釜山トランシップの約4割は中国貨物である。奪還に向け日本側港湾と協力していきたい。

※青島港(前湾港区)視察時、旧港から新港への移設に関する質問を市長が副総裁に行った。

→2002年実施の「西方移動運動」により、荷主、船会社などの理解と支持を得ることができ、約200日で全ての機能を旧港エリアから新港エリアに移設した。